

TPP反対、重い署名232

野田首相のAPECの場での「TPP参加表明に反対する決議案」への衆院議員の署名が232人に達した。しかし、上程は10日の議運委で民主党の反対により却下された。

署名の内訳は自民98、民主96、公明11、共産9、社民6、国民新・新党日本4、たちあがれ1、無所属7。みんなの党を除く全党である。署名運動の中心だった新党日本の田中康夫氏が言った。

「232は衆院の過半数(241)に達していない。民主党が自信があるなら本当に上程して否決すればよい。チキン(気が小さい)だから逃げたのだ」
民主の署名者の中に議運委員長2

人、委員5人が含まれていた、という。民主はこのうち委員2人、相原史乃氏と太田和美氏を差し替えて採決に臨んだ、という。

議運委で筆頭理事の松野頼久氏(民主)が次の反対意見を述べた。

①民主党は昨日の提言で「参加は慎重に」とまとめ

た。しかし、決議案は「反対する」とある。「慎重に」なら上程できた。②外交は内閣の専権事項であり、立法府がこの外交権を事前に制約することは避けるべきだ。
ただし松野氏は意見陳述の中で言った。



4329

「現在、TPPで国論が二分している。参加した場合、農業はしめ医療や金融などさまざまな分野で重大な問題が発生することは明らかだ。政府の情報開示が十分と言えず、議論が尽くされていない。国民の抱く不安にどう対応するのか。政府はしっかりと国民に説明する責任がある」
ほとんど反対論というべき内容で、松野氏がかねて「TPP参加反対」を言っていた信念を反映したものだ。
これほど反対署名が集まった背景を田中氏が笑って言った。

「反TPPのバスに乗り遅れますよ、いいのですか」と電話すると、かなりの署名が増えた」
しかし署名が過半数に達せず、議運委が却下した背景を関係者が指摘した。

「本会議場で反対決議への賛否があぶり出される。政局になったら困る。解散になったら準備ができていない、との恐怖が民主、自民両党にあった」
ベテラン記者が言った。

「232の数は野田にとっても重い。交渉の行方を縛るし、妥結内容によっては国会批准の否決もありうる」
(政治評論家)

民主が決議案上程を却下